

宮城県経済の動き

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから総じて回復の動きが鈍化し、一部で弱めの動きがみられている。

概況

生産は弱い動きとなっている。需要面の動きをみると、公共投資はなお高めの水準ながら、震災復旧工事を中心に減少基調となっている。住宅投資は震災に伴う建替需要の反動などにより減少している。個人消費は総じて横ばい圏内で推移しているが、消費税率引上げに伴う反動などにより下振れしている。雇用情勢は改善が足踏みしている一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている。

この間、企業の景況感は総じて停滞している。

今月のポイント

2019年(暦年)の県内経済は自動車や半導体関連の海外需要落ち込みなどにより生産・輸出が弱含む一方、夏場までは旺盛な個人消費に下支えされ、強弱入り乱れながら非常に緩やかな回復基調を続けましたが、秋以降は消費税率の引上げ、台風や暖冬などの天候要因、震災復興や再開発に関連した建設需要の一巡などの下押し要因が重なり、回復の足取りが一層重くなりました。

なお、新型肺炎が県内経済に与える影響は今のところ限定的とみられますが、浮揚の兆しのみえていた生産の持ち直しが先送りとなるのは不可避な状況です。

(田口 庸友)

(参考) 県内景況判断の推移

	2019年12月	2020年1月	2月
総括判断	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している(据え置き)	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している(据え置き)	震災復興需要の反動などから総じて回復の動きが鈍化し、一部で弱めの動きがみられている(下方修正)
生産	足元弱含んでいる	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている
公共投資	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている	なお高めの水準ながら、震災復旧工事を中心に減少基調となっている
住宅投資	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより減少している
個人消費	消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している	消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している	総じて横ばい圏内で推移しているが、消費税率引上げに伴う反動などにより下振れしている
雇用情勢	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている	改善が足踏みしている一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2019年4~6月) 総じて停滞している	(7~9月) 総じて停滞している	(10~12月) 総じて停滞している

注) 下線は前月(回)からの変更箇所

宮城県の経済情勢に関するより詳細な情報については、機関誌「FLAG」および「77R&C会員情報サイト」にて、ご覧になることができます。